

当院アンジオ室における急変時シミュレーションの取り組み～第一報～

¹社会医療法人 北海道循環器病院

前野 麻紀子¹、三浦 真裕¹、猪俣 雄祐¹、北 裕一¹、山本 匡¹

【はじめに】当院のアンジオ室におけるインターベンション治療には主に医師、放射線技師、臨床工学技士、アンジオ専任看護師のチーム計4名で対応している。しかし、夜間休日はアンジオ室勤務経験の少ない集中治療室看護師が対応しているため、アンジオ室の急変に対し不安を持っている。一方で、放射線技師や臨床工学技士に関しても急変現場で処置に当たる経験が少ない。急変状況に対応するためチームトレーニングを行い、実践に活かすことが出来るようにシミュレーションにて効果的なトレーニングを行った。【目的】アンジオ室における心肺停止の対応シミュレーションを行い、チームとして機能できる各々の役割を理解する。【対象】放射線技師、臨床工学技士、集中治療室看護師【方法】緊急インターベンション治療における、心肺停止事例のシミュレーションを2回実践して自己評価と他者評価を行った。【結果】自己評価と他者評価により対応理解度について、個人レベル、チームレベルにて明らかとなった。自己評価では「多職種の動きが把握できていない」「指示を待つだけで積極性に欠けた」という評価が多かった。【結論】1. シミュレーション教育はチームトレーニングに有用な方法である。2. 多職種の役割を把握出来ていないため、チームとして情報を共有し補完することが実践課題である。3. チーム機能として、「リーダーシップ」「状況把握」「順応性」の3点に欠如していたため、継続したシミュレーション訓練が必要と考えた。